

5. 学生のアセスメント能力を伸ばす教授方法の検討

看護学専攻 辻 慶子

<研究目的>

看護援助を行うにあたって、看護判断（アセスメント）が必要であることは言うまでもないことである。平成15年3月に厚生労働省の「新たな看護のあり方に関する検討会」における報告書に「療養生活の支援については、看護師等が、知識・技能を高め、医師等との適切な連携のもとに、その専門性、自律性を発揮し、患者の生活の質の向上に資する的確な看護判断を行い、適切な看護技術を提供していくことが求められている」「例えば、食事（一般病人食）の形態、安静度、清潔の保持の方法などについては、治療方針を踏まえ、患者の状態に応じて、看護師が判断し行うべきものである。」と明示されている。本学の基礎看護学教育においても、的確な看護判断能力の育成（アセスメント能力）に重点をおき、試行錯誤しているが、明確な授業方法が確立できていない現状である。

そこで、今回、担当である「清潔」におけるアセスメントに着目した。身体を清潔に保つということは、その人の価値観や習慣など多様な個性を反映した援助ケアであることから、看護者のアセスメント能力が大きく影響を及ぼすと考えられる。清潔の講義時期が、他の関連科目の進行状況で疾患等の知識の教授が進んでいないものもあるが、対象の個性を反映したアセスメントができることを学習目標の1つにしている。従来はデモンストレーションを行った後、一律な洗剤やタオル類を使用し、手順ののっとり演習を展開していた。今回は、演習時に学生自身が洗剤やタオル類を選択し清拭を行うこととし、洗剤やタオル類の選択という学生の行動を分析することで、対象者の個性をどのようにアセスメントしながら演習に取り組んでいるのか、学生の思考過程が把握できると考えた。新たな教授方法を試みることにより、学生のアセスメント能力の育成につながるかどうか明らかにしたい。

<研究方法>

対 象：長崎大学医学部保健学科看護学専攻 1年生

実施方法：

- (1) 従来の方式（デモンストレーションと同じ方法）での清拭のグループと洗剤等を選択し清拭をおこなうグループに分ける
- (2) 清拭は全身清拭とし足浴を含む
- (3) 清拭の演習後、洗剤等を選択し清拭をおこなったグループに洗剤の選択とその理由等に関する無記名自由記述式質問紙調査を行う

分 析：自由記述からアセスメントに関する一文を抽出し、その後、学生のカテゴリー化する

倫理的配慮：学生には教育方法の改善の資料にすること、個人の名前は特定されないこと、成績には影響しないことなどを説明し同意を得た学生とする

<研究意義>

看護技術の演習においては、従来は学生がほぼ同一の洗剤やタオルを用いて清拭を行い、科学的知識にのみ重点をおいたアセスメントになりがちであったが、洗剤やタオル類の選択を学生が自由に行える学習環境を設定することで科学的知識だけではなく、個人の好みなどの個性を反映させたアセスメントの育成につながると考ええる。看護が人を対象にした援助であり、人の生活を十分に基盤とした援助が必要不可欠であることを考えた時、授業の中で個性へ配慮できるアセスメント能力を育成することは非常に重要な問題である。本研究の成果は清拭のみにとどまらず、他の看護技術全般にわたる教授方法の改善へ重大な寄与ができる。